

事例番号:320221

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第一部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 37 週 2 日 - 超音波断層法で胃胞小さく、羊水過多を認める

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 6 日 前回帝王切開のため帝王切開目的で入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 38 週 1 日

9:33 帝王切開により児娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 1 日

(2) 出生時体重:2800g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.32、BE -2.2mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 7 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

出生当日 新生児一過性多呼吸

(7) 頭部画像所見:

生後 3 日 頭部 MRI で脳室拡大を軽度認める

生後 11 日 頭部 MRI で大脳基底核・視床に軽度信号異常を認める

#### 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3名、小児科医 1名、麻酔科医 1名、研修医 1名

看護スタッフ:助産師 1名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、一時的な胎児の脳の低酸素や虚血による中枢神経障害であると考ええる。

(2) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の発生時期を特定することは困難であるが、妊娠 37 週 2 日までに生じた可能性がある。

(3) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

### 2) 分娩経過

(1) 既往帝王切開の適応で妊娠 38 週 1 日に選択的帝王切開を行ったことは一般的である。

(2) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

出生時の対応およびその後の新生児管理はいずれも一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

胎児期に中枢神経障害を発症した事例について集積し、原因や発症機序について、研究の推進が望まれる。

**(2) 国・地方自治体に対して**

胎児期の中枢神経障害発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体の支援が望まれる。